

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	そわら		
○保護者評価実施期間	7年 4月 1日		～ 8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	7年 4月 1日		～ 8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援計画を示して、支援内容の説明がされている。	保護者との面接、療育スタッフ間の協議、医師による助言を元に児童発達支援計画を作成しています。保護者の希望にそって子どもの成長につながる支援計画の作成を心がけています。	保護者とのコミュニケーションを増やし、日々成長する子どもに合わせた目標設定や支援内容の策定をタイムリーに行える様にしていきたいと考えています。
2	療育スタッフに専門職を配置し、より専門的な支援が行うことができる。	言語聴覚士、作業療法士、公認心理師などの専門職を配置し、専門的な視点からの発達評価、またそれに基づく支援を提供できるようにしている。	専門的支援の実施にあたり、子どもひとりひとりに対応した個別の支援を拡充できるようにしていきたいと考えています。
3	客観的な評価基準に基づいた発達評価を行っている。	標準化された発達検査や知能検査、発達評価などを実施し、評価を元に支援目標や支援内容、援助方法などを検討し、児童発達支援計画を作成しています。	成長発達を客観的な視点から確認できるように定期的な評価を実施していきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容の目的や狙いなどを保護者に分かりやすく説明する。	発達についての基礎的な知識や障害に対する基礎的な知識、またそれらをかみ砕いて分かる様に伝えるための説明スキルがまだ十分でないと感じる。	活動内容や支援の目的や狙いなどを保護者に分かりやすくするため、保護者との面接を通して説明する、HPやSNS、通信の発行などを通して情報発信することを充実させていきたい。
2	活動内容、活動プログラムが固定化されないよう工夫する。	スケジュールなどはルーティーン化することにより、理解しやすく出来ることを増やせるように配慮しているが、そのために一部の子どもにとっては活動が固定化されて飽きがちになることにつながる可能性もあります。	活動を固定化してルーティーン化することで支援に活かすことと同時に、新しいことへのチャレンジもできるように活動プログラムを工夫し、どの子どもでも楽しめる活動内容を考えていきたいと思います。
3			